

## 宮城県唯一のホップ農家



一般社団法人イシノマキ・ファームは、石巻市北上町で、耕作放棄地50㍍を利用し、2017年からホップ栽培をしている。

東北では岩手県の遠野、秋田県の横手が有名だが、唯一宮城県だけが栽培農家がなく初の試みとなる。地域の景観が良くなり、人々でにぎわったらいいなと願いホップ栽培を始めた。

収穫は、地域の人や県内外からのボランティアの手を借り8月中旬から下旬にかけて5m程に伸びる蔓から手摘みする。ホップの毬花は鮮度が命。数時間で劣化してしまうため、すぐに冷凍や乾燥させて保管する。まさに時間との戦いだ。

石巻産ホップを使ったビール「巻風エール」が2017年夏に誕生し、他にもホップソルトやホップアイスなどの販売も始めている。

代表理事の高橋由佳さん（56）は、「今後は収量を増やしてホップ農家を育てていきながら、宮城のホップ＝イシノマキ・ファームと言われるようになりたい。また、ホップ栽培を通じて雇用の創出や経済的活動にも繋げていきたい」と話す。

取り組み5年目になる今年、本格的な事業化に向けて期待が高まる。